

気候情報

2011年6月の日本の天候

- 北日本日本海側と西日本で多雨、九州では中旬に記録的な大雨
- 西日本では日照時間がかなり少なかった
- 沖縄地方はこれまでで最も早い梅雨明け（速報値）
- 6月下旬の平均気温は東・西日本で過去最高値

6月の天気概況

梅雨前線や暖かく湿った気流の影響により、西日本や北・東日本日本海側を中心に大雨の日があったため、月降水量は北日本日本海側ではかなり多く、西日本では多かった。平年に比べて曇りや雨の日が多かった西日本では月間日照時間はかなり少なく、北日本日本海側と東日本太平洋側では少なかった。月平均気温は、ほぼ月を通して気温が平年を上回った沖縄・奄美ではかなり高かった。また、月のはじめや中旬に気温が平年を下回る時期があった北・東・西日本でも月平均気温は高くなった。

上旬から中旬にかけては、梅雨前線が九州から本州の南岸に停滞した。また太平洋高気圧は、月の前半は西に平年より強く張り出した。沖縄地方では太平洋高気圧に覆われ晴れの日が多くなり、沖縄地方では梅雨の統計を開始した1951年以降、最も早い9日ごろに梅雨明けした（速報値）。一方、南から暖かく湿った気流が流れ込んだ九州では中旬には大雨の日が続き、中旬の降水量が1,000 mm 前後に達する大雨となったところがあつた。

下旬には太平洋高気圧は本州の南で強まり、梅雨前線は日本海から北陸、東北地方まで北上して停滞した。東北地方から北陸地方の所々で大雨となったほか、下旬中頃には台風第5号が先島諸島から東シナ海を北上した影響により西日本太平洋側でも所々で大雨となった。その後も北日本では梅雨前線の影響を受け、また東日本以西では暖かく湿った気流の影響を受けて雲が広がりやすかったが、東・西日本太平洋側では晴れて所々で猛暑となった。下旬の平均気温は、東・西日本では旬の統計を開始した1961年以降、6月下旬としては最も高い値を更新した。また、24日には熊谷（埼玉県）で6月としての国内最高気温となる39.8℃を記録した。奄美地方は22日ごろ、九州南部は28日ごろ梅雨明けした（速報値）。

上旬：梅雨前線が東シナ海から日本の南に停滞することが多く、東・西日本太平洋側では曇りや雨の日が多かった。北日本、東・西日本日本海側では天気は周期的に変化した。

中旬：梅雨前線が九州から本州南岸に停滞することが多く、西日本と東日本太平洋側では曇りや雨の日が多かった。北日本と東日本日本海側では天気は周期的に変化し、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて概

ね晴れた。

下旬：梅雨前線は期間を通して北陸から東北地方に停滞した。23日から24日にかけては北陸から東北地方などで大雨となった一方、西日本と東日本太平洋側では晴れて気温が上がり、猛暑日となったところもあった。期間の中ごろは、南から暖かく湿った気流の影響により沖縄・奄美と西日本太平洋側では所々で大雨となった。期間後半も、梅雨前線や湿った気流の影響により全国的に雲が広がりやすかったが、東・西日本太平洋側を中心に晴れて気温が上がり、所々で猛暑となった。

6月の気候統計

月平均気温：全国的に高く、沖縄・奄美でかなり高かった。東日本では平年を1℃以上上回った。

月降水量：北日本日本海側ではかなり多く、西日本で多かった。北日本太平洋側、東日本日本海側では平年並で、東日本太平洋側、沖縄・奄美では少なかった。

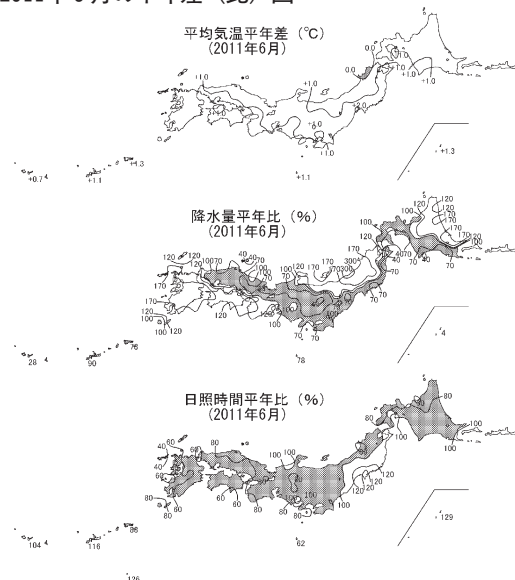
月間日照時間：西日本でかなり少なく、北日本日本海側、東日本太平洋側で少なかった。北日本太平洋側、東日本日本海側、沖縄・奄美では平年並だった。

（気象庁観測部統計室）

6月の記録（1位更新のみ）

- ・月降水量多い方から（mm）
酒田 391.0 雲仙岳 1171.0 人吉 1042.5
阿久根 1027.0 など6地点
- ・月間日照時間少ない方から（時間）
雲仙岳 35.3 福江 42.3

2011年6月の平年差（比）図



注）陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。